



Title	地域言語学的観点から見たツングース諸語の補助動詞
Author(s)	白, 尚燁
Citation	北方言語研究, 8, 59-79
Issue Date	2018-03-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/68728
Type	departmental bulletin paper
File Information	03Baek.pdf



地域言語学的観点から見たツングース諸語の補助動詞¹

白 尚 燁
(室蘭工業大学)

0. はじめに

本稿は、地域言語学的観点からツングース諸語²の補助動詞における言語間の相違を明らかにし、その相違が周辺言語との接触に起因する可能性を提示することを目的とする。地域言語学というのは、同一語族における言語間の違いを周辺言語の影響による言語接触の観点から説明を目指す言語学の一分野である。

0.1. 補助動詞の定義

本研究での補助動詞の定義は、動詞1と動詞2が分析的に結合した場合、動詞2本来の語彙的意味が弱化された結果、主要な意味機能を担う動詞1のテンス・アスペクト・ムードなどの文法的機能を果たすようになった動詞を指す。以下は、ドラヴィダ語族のタミール語の用例で、(a) は存在動詞*iru*-による進行「～ている」、(b) は授与動詞*koṭu*-による授与「～てあげる」の補助動詞用法である。

・ 進行: V₁-CVB + V₂ 'be' (Tamil)

a) *kumaar eṅkal viiṭ-ṭ-il taṅk-i iru-kkiṭ-aan.*
Kumar we.OBL house-LOC stay-CVB be-PRS-3SG.M
「クマルは私たちの家に泊まっている」

(Lehmann 1993 (1989): 206)

・ 授与: V₁-CVB + V₂ 'give' (Tamil)

b) *raajaa kumaar-ukku-k katav-ai-t tira-ntu koṭu-tt-aan.*
Raja Kumar-DAT door-ACC open-CVB give-PST-3SG.M
「ラジャはクマルにドアを開けてあげた」

(Lehmann 1993 (1989): 227)

1 本稿は、筆者の博士論文Back(2016)の一部を修正・加筆を行ったものである。なお、本稿における例文の表記、グロス、和訳はすべて筆者によるもので、原典と異なることがある。また、出典が記されていない用例は、該当する言語の話者から直接得たデータであることを断っておく。

2 本研究におけるツングース諸語の系統的分類は、下記のIkegami(1974)にしたがう。但し、ホジェン語に関しては、風間(1996a)を参照する。

第I群: エウエンキ語(Ek)、エウエン語(E)、ネギダル語(N)、ソロン語(S)

第II群: ウデヘ語(U)、オロチ語(Oc)、ホジェン語(Hz)

第III群: ナーナイ語(Nn)、ウルチャ語(Ol)、ウイльта語(Ut)

第IV群: 満洲語(M)

また、ツングース諸語は、その地域的分布によって、東シベリア地域の北ツングース諸語（エウエンキ語、エウエン語）、アムール川流域、沿海地方、サハリン島の東ツングース諸語（ネギダル語、ウルチャ語、ナーナイ語、オロチ語、ウデヘ語、ウイльта語）、中国東北地方、新疆ウイグル自治区の南ツングース諸語（ソロン語、ホジェン語、満洲語、シベ語）の3つのグループに分類できる。新疆ウイグル自治区で話されるシベ語は、満洲語の方言として扱われるのが一般的である。

0.2. 先行研究

下記では、ツングース諸語全体の補助動詞に関する先行研究を紹介する。

①風間（2014）

風間（2014: 166-167）は、日本語とアルタイ諸言語の類型論的特徴を比較・対照した論文で、ツングース諸語の補助動詞についても触れ、モンゴル語や中国語との接触がある（又はあった）と推定される一部のツングース諸語（ソロン語、満洲語、シベ語）を中心に補助動詞が発達していることから、本来のツングース諸語には補助動詞が存在しないという見解を示している。言い換えれば、プロトタイプのツングース諸語には補助動詞という統語的特徴が現われ難く、モンゴル語や中国語からの影響を受けたツングース諸語のみに見られる現象であると見ている。

②白（2014）

白（2014: 91-95）では、副動詞語尾 **-mi* による多様な統語機能の一つとして補助動詞を取り上げ、中国領ツングース諸語には、ロシア領ツングース諸語と違って補助動詞が集中していることを示した。

0.3. 問題提起

ツングース諸語全体の補助動詞に焦点を当てた先行研究は、上記の0.2.で紹介したように、非常に限られている。そのため、ツングース諸語内部における補助動詞の相違に関しては、明らかになっていないところが多い。したがって、本稿ではツングース諸語の補助動詞における言語間の違いをより厳密かつ具体的に示した上で、周辺言語との接触の可能性について考察する。

0.4. 補助動詞のパラメータ

表 1. 補助動詞の類型論的パラメータ

a. 開始（始める＞「～し始める」） b. 完結（終わる＞「～し終わる」） c. 可能 ³ （できる＞「～できる」） ・不可： <i>*alba-</i> 「できない」 ・能力： <i>*mutə-</i> 「できる」 ・理解： <i>*ulxi-</i> 「理解する」 ・取得： <i>*baka-</i> 「得る」 or <i>bahana-</i> 「わかる」 ・コピュラ： <i>*o-</i> 「なる」	d. 進行（ある・いる＞「～している」） e. 経験・試行（見る＞「～してみる」） f. 授与（あげる・くれる＞「～してあげる・くれる」） g. 完了（置く＞「～しておく」）
--	--

³ *は動詞の祖型を示すが、限られたツングース諸語にしか見られない *bahana-* に関しては、満洲語の動詞形を基準とする。

本稿では、上記の表1で示すように、(a) 開始、(b) 完結、(c) 可能、(d) 進行、(e) 経験・試行、(f) 授与、(g) 完了の7つの補助動詞パラメータにもとづき、考察を進める。但し、可能に関しては、多様な動詞が可能補助動詞を構成することから、本研究では動詞のタイプも指定する⁴。また、動詞1に結合する副動詞語尾は、同時の意味機能を中心とし、先行、理由など多様な意味機能が見られる*-*mi*に限定する。

1. ツングース諸語

第1節では、上記の7つの補助動詞パラメータを取り入れ、ツングース諸語の補助動詞における言語間の相違について考察を行う。

1.1. 開始

日本語の「～し始める」に該当する開始補助動詞は、表2と(1-3~1-6)のとおり、東ツングース諸語と南ツングース諸語にその用例が確認でき、副動詞語尾*-*mi*と「始める」の動詞が分析的に結合して開始の補助動詞構文を形成する。しかし、北ツングース諸語と東ツングース諸語のうち最も北部に位置するネギダル語には、このような補助動詞構文は観察されず、(1-1)に示されているように、述語動詞に開始のアスペクト形式-*l*を総合的(形態的)に付加して同じ意味効果をもたらす。ここで注意すべきは、-*l*が北ツングース諸語と東ツングース諸語(1-2)には見られるが、南ツングース諸語には存在しないことである(表2参照)⁵。言い換えれば、東ツングース諸語では、総合的または分析的の2つの方法で開始のアスペクトを表現できるということである。但し、その頻度としては、総合的な形式-*l*による開始アスペクト標示が圧倒的に高い。要するに、ツングース諸語の開始アスペクトは、その地域的分布によって、北ツングース諸語、ネギダル語(総合的な開始)、東ツングース諸語(総合的なまたは分析的な開始)、南ツングース諸語(分析的な開始)の順で連続体を成すと考えられる。

表 2. ツングース諸語の開始アスペクト

	北				東				南			
	Ek	E	N	Ol	Nn	Oc	Ut	U	S	H _z	M	S _b
開始(総合的)	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-
開始(分析的)	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+

・ Evenki (I)

1-1) *kuyakaan* *soot* *soyo-l-lo-n*.
 child very cry-INC-N.FUT-3SG

⁴ 但し、ここでの可能動詞タイプの分類は、補助動詞本来の意味にもとづいたものであることを断っておく。そのため、実際各言語において、いかなる可能の意味(状況可能か能力可能かあるいは両方か)を示しているかに関しては考慮していない。

⁵ 但し、中国領に分布するエウエンキ語の方言であるオロチョン語には、開始アスペクト形式-*l*が保持されている(Baek 2017: 21-22参照)。

「その子供はひどく泣き始めた」

(Bulatova and Grenoble 1999: 31)

・ Udihe (II)

- 1-2) *nuani mindulə xauntasi-li-ə-ni.*
(s)he I.LOC ask-INC-PTCP.PST-3SG
「彼は私に尋ね始めた」

(カンチュガ 2010: 25)

- 1-3) *buu bonggo klassa-la giə jawayda-a-mu niasulə-mi.*
we.EXC first class-LOC together start-PTCP.PST-1PL.EXC study-SIM.CVB
「私たちは一年生のクラスで、一緒に勉強し始めた」

(カンチュガ 2010: 18)

・ Solon (I)

- 1-4) *bü xoniŋba=l jaay-dixi xajšila-m əəkə-ə-müŋ.*
we.EXC sheep.ACC=CLT ten-ABL shear-IMPF.CVB start-IMPF-1PL.EXC
「私たちは10日から羊の毛を刈り始めた」

(Chaoke 1995: 240)

・ Hezhen (II)

- 1-5) *təni xəsü-mi odi-mi=du,*
just say-IMPF.CVB become-IMPF.CVB=CLT
sagədi ədin ədinə-mi dəriu-xə-n.
strong wind blow-IMPF.CVB start-PTCP.PST-3
「今や言い終えるや強い風が吹き始めた」

(Tamura 2008: 46)

・ Manchu (IV)

- 1-6) *nikan wailan bə daila-mə dəribu-hə.*
Nikan Wailan ACC attack-IMPF.CVB start-PTCP.PST
「Nikan Wailanを攻撃し始めた」

(Sung 1968: 81)

1.2. 完結

日本語の「～し終わる／終える」に該当する完結補助動詞は、すべてのツングース諸語に対応する補助動詞の用例が入手できた。下記の(2-1~2-5)はその一部である。しかし、上記の開始と違って、完結には動詞語幹に直接接続される総合的な完結アスペクト形式は存在しない。

・ Evenki (I)

- 2-1) *nuŋartyn ətədə-rə-ə taŋdja-mii.*
they finish-N.FUT-3PL read-COND.CVB
「彼らは読み終わった」

(Boldyrev 1994: 165)

・Nanay (III)

2-2) *tui u-mi songo-mi xoĵi-xa-ni.*
 that say-SIM.CVB cry-SIM.CVB finish-PTCP.PST-3SG
 「彼は、そう言って泣き終わった」

(風間 2001: 286)

・Orochi (II)

2-3) *jiimi bii xitə-wi soĵo-mi odi-xa-ni?*
 why I child-1SG cry-SIM.CVB finish-PTCP.PST-3SG
 「私の子どもはどうして泣き止んだのか」

(風間 1996b: 100)

・Hezhen (II)

2-4) *xəsu-mi odi-mi=du, guləna-xə-ni.*
 say-IMPF.CVB finish-IMPF.CVB=CLT depart-PTCP.PST-3SG
 「言い終えるや出発した」

(Tamura 2008: 51)

・Manchu (IV)

2-5) *gəmu əfulə-mə wəĵi-ha manggi.*
 everything destroy-IMPF.CVB finish-PTCP.PFV after
 「あらゆるものを破壊し終えた後」

(Sung 1968: 78)

表 3. ツングース諸語の完結アスペクト

	北				東				南			
	Ek	E	N	Ol	Nn	Oc	Ut	U	S	Hz	M	Sb
完結 (総合的)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
完結 (分析的)	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+

1. 3. 可能

表4で示すように、すべてのツングース諸語に副動詞語尾 **-mi* と分析的に結合する可能補助動詞が存在し、その発達程度は、僅かながら、北→東→南の順で徐々に増加していく傾向が確認できる。

表 4. ツングース諸語の可能補助動詞

		不可	能力	理解	取得	コピュラ	計
		<i>*alba-</i> 「できない」	<i>*mutə-</i> 「できる」	<i>*ulxi-</i> 「理解する」	<i>*baka-</i> 「得る」 or <i>bahana-</i> 「わかる」	<i>*o-</i> 「なる」	
北	Ek (I)	+	-	-	-	-	1
	E (I)	+	-	-	-	-	1
	N (I)	+	-	-	-	-	1
	OI (III)	-	+	?	-	-	1
東	Nn (III)	-	+	+	-	-	2
	Oc (II)	-	+	-	-	-	1
	Ut (III)	+	-	+	-	-	2
	U (II)	-	+	-	-	-	1
南	S (I)	-	-	-	+	+	2
	Hz (II)	-	+	+	+	-	3
	M (IV)	-	+	-	++	-	3
	Sb (IV)	-	+	-	++	+	4

表 5. ツングース諸語の不可補助動詞**alba-* (Cincius et al. 1975: 30に基づき、筆者作成)

北				東				南			
Ek	E	N	OI	Nn	Oc	Ut	U	S	Hz	M	Sb
+	+	+	-	-	-	+	-	-	-	-	-

同時に、可能補助動詞を構成する動詞タイプにも違いが見られる。例えば、東シベリア地域のエウエンキー語 (3-1)、エウエン語は、共通して動詞**alba-*「できない」を使用して、不可の補助動詞構文を構成する。一方、東ツングース諸語 (ネギダル語 (3-2)、ウイльта語 (3-3) を除いた) と南ツングース諸語では、音韻的にこれと対応する語彙はあるが、不可の補助動詞としての機能はない。ツングース諸語の語彙比較研究 Cincius et al. (1975: 30) でも、**alba-*が不可動詞として機能するのは、エウエンキー語、エウエン語、ネギダル語、ウイльта語のみで、他のツングース諸語の対応する語彙にはこのような不可の補助動詞機能は報告されていない (表 5 参照)。また、多くの東ツングース諸語と南ツングース諸語は、北ツングース諸語と異なって、能力と関連した肯定可能の補助動詞**mutə-*「できる」 (用例 3-4, 3-6, 3-10, 3-13, 3-16 参照) または**ulxi-*「理解する」が発達している (用例 3-5, 3-7, 3-11 参照)。さらに、南ツングース諸語には、東ツングース諸語と異なり、**baka-*「得る」 (3-8, 3-12, 3-14, 3-17)、*bahana-*「わかる」 (3-15, 3-18) の補助動詞が、副動詞語尾 **-mi* と組み合わせて可能の補助動詞構造に用いられる。なお、ソロン語やシベ語においては、コピュラ動詞**o-*「なる」も可能の補助動詞になりうる (3

-9, 3-19)。要するに、 possible の補助動詞は、ツングース諸語全般に見られ、北から南へ行くにつれ、その頻度が増えていく。また、 possible を表す補助動詞の種類にも、その地域的分布によって相違が見られる。

不可

・ Evenki (I)

3-1) *bii tokii-wa taala-duu alba-m alaat-ča-mii.*

I moose-ACC salt.lick-DAT be.unable-1SG wait-IMP-COND.CVB

「私は（ムースが）塩をなめるところでムースを待てなかった」

(Bulatova and Grenoble 1999: 39)

・ Negidal (I)

3-2) *moo-la tuktitčə-mi alba-ča-w.*

tree-LOC climb-COND.CVB be.unable-PTCP.PST-1SG

「私は山登りができない」

(Pevnov and Khasanova 2003: 111)

・ Uilta (III)

3-3) *gələ-du-mi alba-xa-mbi.*

seek-REP-SIM.CVB be.unable-PTCP.PST-1SG

「さがし出すことがおれはできなかった」

(池上 2002: 119)

可能

・ Nanay (III)⁶

3-4) *xooni=daa ʃapa-mi mutə-əsi.*

how=CLT take-SIM.CVB be.able-NEG.PTCP

「どうしてもとることができない」

(風間 2010: 139)

3-5) *njoani=ragdaa xupi-mi otoli-i bi-či-ni=goani.*

(s)he=CLT play-SIM.CVB understand-PTCP.PRS be-PTCP.PST-3SG=CLT

「彼だけが引くことができるのだったのだ」

(風間 2010: 90)

・ Udihe (II)

3-6) *a-ta-i=da waa-mi mutə njaa minəwə.*

NEG-FUT-2SG=CLT kill-SIM.CVB be.able still I.ACC

「殺すことなんてできないんだよ、再び、この私を」

(風間 2004: 89)

⁶ 風間 (2010: 254-255) では、*mutə*-を状況可能、*otoli*-を能力可能の補助動詞として記述している。

・ Uilta (III)

- 3-7) *xai-wa=daa andu-mi utulli-ni.*
 what-ACC=CLT make-SIM.CVB understand.PTCP.PRS-3SG
 「なんでもかれはつくれる」

(池上 1997: 222)

・ Solon (II)

- 3-8) *bilxü-wə-n gəntəxən bodo-m bax-sa gūnən.*
 mirror-ACC-3SG suddenly think-IMPF.CVB obtain-PTCP.PST say.IMPF.3
 「鏡を急に思い出したという」

(風間 2007: 56)

- 3-9) *sindü büü-mi ə-si-n oo-do.*
 2SG.DAT give-IMPF.CVB NEG-PTCP.PST-3SG become-PTCP
 「あなたにさしあげるわけにはいきません」

(風間 2007: 78)

・ Hezhen (II)

- 3-10) *əmə nio=də kutə-mi mətə-ršə-n.*
 one person=CLT steer-IMPF.CVB be.able-PTCP.NEG-3SG
 「誰も舵をとることができない」

(Tamura 2008: 47)

- 3-11) *bi morin-mə jalu-m ulxi-ji.*
 I horse-ACC ride-IMPF.CVB understand-PTCP.N.PST.1SG
 「私は馬にのることができる」

(李 2006: 108)

- 3-12) *əsi surgı dou jəfu-m baka-ušən.*
 now vegetable even eat-IMPF.CVB obtain-IMPRS.NEG
 「今野菜も食べることができない」

(李 2014: 120)

・ Manchu (IV)⁷

- 3-13) *duka bə fitai dasi-či, ainaha nijalma dosi-mə mutə-mbi.*
 door ACC hard close-COND.CVB which person enter-IMPF.CVB be.able-IMPF
 「門を固く閉ざせば、どんな人が入ることができるか？」

(津曲 2002: 83)

- 3-14) *bučə-ki sə-či, bučə-mə baka-rakū bi-hə.*
 die-OPT.1SG say-COND.CVB die-IMPF.CVB obtain-PTCP.IMPF.NEG be-PTCP.PST
 「死のうとしたが、死ねなかった」

⁷ 満洲語は、シベ語と違って、条件副動詞語尾-*či*と*o-*「なる」が連結し、可能や許可の補助動詞を構成する（下記用例参照）。

han i gisun bə mara-či o-mbi=o.
 emperor GEN word ACC defy-COND.CVB become-IMPF=Q
 「帝の言葉を拒みうるか」

(津曲 2002: 83)

(Sung 1968: 80)

- 3-15) *bi nurə omi-mə bahana-rakū.*
 I wine drink-IMPF.CVB know-PTCP.IMPF.NEG
 「私はお酒を飲めない」

(Gorelova 2002: 271)

・Sibe (IV)

- 3-16) *bi Gulja-da əmsaqə gənə-mə mutu-mi.*
 I Georgia-DAT alone go-IMPF.CVB be.able-IMPF
 「私は自分でジョージアに行ける」

(久保 et al. 2011: 88)

- 3-17) *zibən-də xoniN jalə-wə baχə-mə ĵə-qu⁸.*
 Japan-DAT sheep meat-ACC obtain-IMPF.CVB eat-NEG.PTCP
 「日本では羊肉を食べることができない」

(久保 et al. 2011: 88)

- 3-18) *učun učulu-m baχənə-m, bəjlə-m baχənə-m.*
 sing sing-IMPF.CVB know-IMPF dance-IMPF.CVB know-IMPF
 「(彼は) 歌い、踊ることができる」

(Zikmundová 2013: 165)

- 3-19) *məs gələ-maq banja-m o-m na?*
 we.INCL fear-ANT.CVB live-IMPF.CVB become-IMPF Q
 「私たち恐怖で生きられるか」

(Zikmundová 2013: 165)

1.4. 進行

東ツングース諸語と南ツングース諸語では、副動詞語尾 **-mi* と存在動詞 *bi-* の分析的な組み合わせによる進行の補助動詞が見られる (4-4~4-8, 4-10~4-12)。しかし、ロシア領の北部に分布するエウエンキー語、エウエン語、ネギダル語には、これと対応する補助動詞の用例を見つけることはできない。その代わり、これらのツングース諸語には未完了接辞 **-ja* を用いて同じ進行アスペクトを表す (用例4-1~4-3参照)。中国領で唯一第 I 群に属するソロン語は、この進行アスペクト形式を保持しており、総合的 (4-9) または分析的 (4-10) の2つの方法で進行の意味を示すことができる。

・Evenki (I)

- 4-1) *bəjə agi-tki girku-ja-ja-n.*
 man forest-DIR go-IMPF(PROG)-FUT-3SG
 「その人は森へ行っているだろう」

⁸ シベ語の *baχə-* は、他の可能補助動詞とは異なり、主要動詞の前に来て副動詞語尾 *-mə* と直接結合する。これは、主要動詞に前置して先行副動詞 *-fi* と結合し、同じ意味効果を引き起こす満洲語の対応動詞 *baha-* を連想させる (津曲 2002: 84 参照)。

(Nedjalkov 1997: 247)

• Even (I)

- 4-2) *Omčəni namnɪ-d-da-n.*⁹
Emcheni gallop-PROG-N.FUT-3SG
「Emcheniはとても速く走っている」

(B. Pakendorf fielddata)

• Negidal (I)

- 4-3) *ǰəb-ǰə-ǰi-du-n.*
eat-PROG-PTCP.PRS-DAT-3SG
「それが草を食べている間に」

(風間 2002: 126)

• Ulcha (III)

- 4-4) *jaüjü-maari jaüjü-maari bi-či-ti, əkə-səl patala-sal.*
sing-SIM.CVB.PL sing-SIM.CVB.PL be-PTCP.PST-3PL girl-PL beautiful-PL
「きれいな女子たちが歌っていた」

(風間 2006: 131)

• Nanay (III)

- 4-5) *xai ta-mi bi-i-si?*
what do-SIM.CVB be-PTCP.PRS-2SG
「あなたは何をしているの」

(風間 2008b: 89)

• Orochi (II)

- 4-6) *bii xogo-wo waa-mi bi-či-ni.*
I seal-ACC kill-SIM.CVB be-PTCP.PST-3SG
「私はアザラシを狩っていた」

(Avrorin and Boldyrev 2001: 365)

• Udihe (II)

- 4-7) *uti ətətə-nə-mi, jəu diga-mi bi-i-ti.*
that work-DIRINT-SIM.CVB what eat-SIM.CVB be-PTCP.PRS-3PL
「彼らは、働きに来て、何を食べているんだ」

(風間 2004: 383)

• Uilta (III)

- 4-8) *tuwə xurigači-mi bi-čči-ni.*
winter do.ainu.bear.festival-SIM.CVB be-PTCP.PST-3SG
「冬にくままつりしていた」

(池上 2002: 23)

⁹ こちらに挙げたエウエン語（西方言）の用例は、Brigitte Pakendorf先生からご提供いただいたエウエン語テキストによるものである。ここに記して謝意を表したい。

・Solon (I)

- 4-9) *unaajɪ=kki jɪnjɪ-jɪ-ra-n gɪnən.*
 girl=CLT say-PROG-IMPF-3 say.IMPF.3
 「女は話しているという」

(風間 2008a: 19)

- 4-10) *əmün xüüdee timsəə-ldii-m bi-si-n gɪnən.*
 one sack.ACC take.by.force-RECP-IMPF.CVB be-PTCP.PST-3 say.IMPF.3
 「一つの布袋を奪い合っているという」

(風間 2007: 84)

・Hezhen (II)

- 4-11) *su arki-wə omi-mi bi-ji-su?*
 2PL.NOM liquor-ACC drink-IMPF.CVB be-PTCP.N.PST-2PL
 「あなたたちはお酒を飲んでいるか」

(李 2006: 58)

・Manchu (IV)

- 4-12) *hūwang joo ba bə tuwakija-mə bi-hə sə-mə ala-mbi.*
 Hwangcaoba ACC watch-IMPF.CVB be-PTCP.PFV say-IMPF.CVB say-IMPF
 「(彼らは) 黄草坡を守っていたという」

(Choi et al. 2012b: 111)

1.5. 経験・試行

動詞「見る」による経験・試行の補助動詞は、下記のように南ツングース諸語（ソロン語、ホジェン語、満洲語、シベ語）のみ、その用例が観察できる。但し、ホジェン語（5-2）に関しては、未完了副動詞語尾 **-mi* と動詞 *ič-*「見る」の結合による補助動詞構造が、*-mčia-* のように文法化が進んだ結果、接尾辞化されている。一方、北ツングース諸語と東ツングース諸語にはこのような補助動詞用例が見られない。

・Solon (I)

- 5-1) *jəgə-wə-n təjtəri-m ič-čəə gɪnən.*
 chin-ACC-3 stroke-IMPF.CVB see-PTCP.PST say.IMPF.3
 「顎をなでてみたという」

(風間 2008a: 49)

・Hezhen (II)

- 5-2) *bi ədin-mə gələ-m-ičia-ø-mi.*
 I wind-ACC seek-IMPF.CVB-see-IMPF-1SG
 「私が風を探してみる」

(Tamura 2008: 46)

・Manchu (IV)

- 5-3) *sijanseng* *ləolə-mə* *tuwa-ø.*
 teacher think-IMPF.CVB see-IMP
 「先生、考えてみてください」

(Sung 1968: 78)

・Sibe (IV)

- 5-4) *əmdan* *ta-m* *ta-ø.*
 once look-IMPF.CVB look-IMP
 「一度見てみて」

(Zikmundová 2013: 167)

1.6. 授与

動詞「与える」を用いた授与補助動詞は、ソロン語（6-1）、満洲語（6-2）、シベ語（6-3）の 3 つの言語に限定される。しかし、このタイプの補助動詞構造は、ロシア領のツングース諸語にはその用例が確認できない。

・Solon (I)

- 6-1) *aggu* *sıbbaa-m* *büü-sə* *günən.*
 wisdom give-IMPF.CVB give-PTCP.PST say-IMPF.3
 「知恵を授けてくれたという」

(Kazama 2008a: 21)

・Manchu (IV)

- 6-2) *haha-i* *ʃaka* *bə* *haha* *də* *faksala-mə* *bu-fi* *unggi-ø.*
 man-GEN thing ACC man DAT divide-IMPF.CVB give-ANT.CVB send-IMP
 「男のものをその男に分けてやって送りなさい」

(Sung 1968: 79)

・Sibe (IV)

- 6-3) *ʃai* *əmdan* *ʃi-mə,*
 next time come-MPF.CVB
sin-č *far-χ* *əwən* *ara-m* *bu-ki.*
 2SG-DIR heave-PTCP.PFV bread make-IMPF.CVB give-OPT.1
 「今度あなたが来たら、シベパンを作ってあげる」

(Zikmundová 2013: 166)

1.7. 完了

動作の完了を示す完了補助動詞は、満洲語とシベ語に動詞 *sinda-* (*səNda-*) 「置く」を用いて補助動詞構文を形成する（用例 7-1~7-2 参照）。やはり、ロシア領のツングース諸語では対応する完了補助動詞が見られない。

・Manchu (IV)

7-1) *gəmu saikan boo-də dosim-bu-mə sinda-ə.*
 all well house-DAT enter-CAUS-IMPF.CVB put-IMP
 「全部家に入れておけ」

(Choi et al. 2012a: 403)

・Sibe (IV)

7-2) *niməŋə iji-mə wajə-Xə amələ,*
 cooking.oil spread-CVB finish-PTCP.PFV after
fəksə wəNkə-mə səNda-mi.
 bowl cover-IMPF.CVB put-IMPF
 「油を塗りおえた後、鉢をかぶせてく」

(郝 2014: 203)

1.8. 小結

本節では、a) 開始、(b) 完結、(c) 可能、(d) 進行、(e) 経験・試行、(f) 授与、(g) 完了の7つの補助動詞パラメータを取り入れ、ツングース諸語の補助動詞に見られる言語間の相違について考察し、その結果を表6にまとめた。

表 6. ツングース諸語の補助動詞

		開始	完結	可能				進行	経験 試行	授与	完了	計
				不可	能力	理解	取得					
北	Ek (I)	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-	2
	E (I)	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-	2
	N (I)	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-	2
東	Ol (III)	+	+	-	+	?	-	-	+	-	-	4
	Nn (III)	+	+	-	+	+	-	-	+	-	-	5
	Oc (II)	+	+	-	+	-	-	-	+	-	-	4
	Ut (III)	+	+	+	-	+	-	-	+	-	-	5
	U (II)	+	+	-	+	-	-	-	+	-	-	4
	S (I)	+	+	-	-	-	+	+	+	+	-	7
南	Hz (II)	+	+	-	+	+	+	-	+	+	-	7
	M (IV)	+	+	-	+	-	++	-	+	+	+	9
	S (IV)	+	+	-	+	-	++	+	+	+	+	10

ツングース諸語の補助動詞は、表6で確認できるように、北ツングース諸語から南ツングース諸語への地域的分布によって徐々に増加している。具体的に言うと、北ツングース諸語（エウエンキー語、エウエン語）と最も北部に分布する東ツングース諸語のネギダル

語は不可や完結の補助動詞構造に限定されている。次に、東ツングース諸語には、肯定可能、開始、完結、進行の補助動詞が見られ、補助動詞の発達度合いにおいて、北ツングース諸語より少し進んでいると言える。最後に、南ツングース諸語の補助動詞構造は、開始、完結、肯定可能、経験・試行など多様な補助動詞が発達している。

また、可能を形成する補助動詞のタイプにも、言語間の差異がある。まず、北ツングース諸語とネギダル語には、共通して不可の補助動詞が存在するが、その他のツングース諸語にはほとんど観察されない。多くの東ツングース諸語については、北ツングース諸語と異なり、肯定可能の補助動詞が **muta-*「できる」または **ulxi-*「理解する」が見られる。最後に、南ツングース諸語には、上記の肯定可能以外に、**baka-*「得る」、*bahana-*「わかる」、**o-*「なる」も可能補助動詞を構成する。

2. 周辺言語¹⁰

第2節では、ツングース諸語と隣接しているコリマ・ユカギール語、サハ語、モンゴル語（ハルハ方言）、中国語に焦点を当て、各言語に見られる補助動詞に注目する。これらの言語において、ツングース諸語の副動詞語尾 **-mi* と意味機能的に対応する未完了副動詞と結合する補助動詞に注目する。また、副動詞語尾が存在しない中国語に関しては、2つの動詞が連続し、補助動詞と類似した統語効果が見られる補語構文について検討する。

2.1. コリマ・ユカギール語

コリマ・ユカギール語の未完了副動詞 *-t* は、動詞 *čemie-*「終える」のみ、補助動詞として使用され、完結補助動詞を構成する。開始や進行のアスペクトは、総合的な形式（開始相：-ee、進行相：-nu）が用いられる。

・ 完結

- 8-1) *lebejdii šaqal'e-š-u-t čemie-čül'i.*
 berries gather-CAUS-E-IMPF.CVB finish-PFV.INTR.1PL
 「私たちはベリーを集め終わった」

(Maslova 2003: 413)

2.2. サハ語

サハ語の未完了副動詞 *-A/-u* は、動詞 *sur-*「ある」と分析的に連結し、進行の補助動詞構造を形成する（8-2参照）¹¹。

¹⁰ 本稿では、紙面の制約上、ロシア語における補助動詞の用例については触れていないが、肯定可能（状況可能： *moch*「できる」、能力可能： *umet'*「できる」）、開始 *nachat'*「始める」、完結 *konchat'*「終える」の4つの補助動詞が見られる。

¹¹ 他の補助動詞に関しては、先行副動詞 *-An* が開始、完結、および試行の補助動詞構造を構成する。

・開始: *ahaa-n er* 「食べ始める」 ・完結: *aas-an büt* 「読み終える」

eat-ANT.CVB begin read-ANT.CVB finish

・試行: *ket-en kór* 「着てみる」

wear-ANT.CVB look

(江畑 and Popova 2006: 63)

・ 進行

8-2) *kül-e* *suruut* 「笑っている」
 laugh-IMPF.CVB be

(江畑 and Popova 2006: 64)

2.3. モンゴル語（ハルハ方言）

モンゴル語（ハルハ方言）の未完了副動詞-*ǰ*は、開始（9-1）、完結（9-2）、可能（不可（9-3）、肯定可能（能力動詞「できる」（9-4）、コピュラ動詞「なる」（9-5））、進行（9-6）、経験・試行（9-7）、授与（9-8）の6つの補助動詞構文に用いられ、幅広く補助動詞が発達していることが確認できる。

・ 開始

9-1) *bi* *xool* *ide-ǰ* *exel-lee.*
 I meal eat-IMPF.CVB start-PST
 「私は食事を食べ始めた」

・ 完結

9-2) *bi* *xool* *ide-ǰ* *duusga-na.*
 I meal eat-IMPF.CVB finish-N.PST
 「私は食事を食べ終わった」

・ 可能

9-3) *Mjagmar xülee-ǰ* *jad-aad* *öröönd or-ǰ* *ir-lee.*
 Mjagmar wait-IMPF.CVB be.unable-ANT.CVB room.DAT enter-IMPF.CVB come-PST
 「ミャグマルは待ちきれずに部屋に入ってきた」

(山越 2012: 160)

9-4) *či* *mor'* *una-ǰ* *čadax* *uu?*
 2SG.NOM horse ride-IMPF.CVB be.able.PTCP.FUT Q
 「お前は馬に乗れるか？」

(山越 2012: 125)

9-5) *čingis* *xaan* *ongoč-ny* *buudl-aas* *narita* *ruu*
 Genghis Khan airport-GEN place-ABL Narita DIR
šuud *nis-č* *bol-no.*
 direct fly-IMPF.CVB become-N.PST
 「チンギス・ハーン空港から成田へ直接飛んでいける」

(山越 2012: 123)

・ 進行

9-6) *čaanaas* *mor'-toj* *xün* *ir-ǰ* *baj-na.*
 beyond.ABL horse-COM person come-IMPF.CVB be-N.PST

「向こうから馬に乗った人がやってくる」

(山越 2012: 122)

・ 経験・試行

9-7) *tamxi tata-ǵ üz-ex üü?*
cigarette pull-IMPF.CVB see-PTCP.FUT Q
「たばこ吸ってみるかい？」

(山越 2012: 124)

・ 授与

9-8) *Bat ene blog-ijg nadad zaa-ǵ ög-sön.*
Bat this blog-ACC I.DAT show-IMPF.CVB give-PTCP.PST
「バトは私にこのブログを教えてくれた」

(山越 2012: 124)

2.4. 中国語

中国語文法では補語構文と呼ばれる統語構造が存在し、動詞の語彙的意味から文法的意味への転換が見られる補助動詞と類似している。下記の中国語話者から得た用例のとおりに、2つの動詞が連続することで、片方の動詞が開始 (10-1)、完結 (10-2)、可能 (10-3~10-6)、進行 (10-7)、試行 (10-8)、授与 (10-9) の幅広い補助動詞の機能を果たす。とりわけ、可能に関しては、能 *néng* 「できる」 (10-3)、可以 *kěyǐ* 「許可する」 (10-4)、会 *huì* 「理解する、わかる」 (10-5)、得 *dé* 「得る」¹² (10-6) など多様な可能補助動詞が見られる。

・ 開始

10-1) *wǒ kāishǐ xuéxí hànyǔ.*
I start learn Chinese
「私は中国語を勉強し始める」

・ 完結

10-2) *tā zuò wán le gōngzuò*
(s)he do finish PERF work
「彼 (女) は仕事をやり終わった」

・ 可能

10-3) *wǒ néng kàn dǒng zhōngguó xiǎoshuō.*
I be.able look understand Chinese novel
「私は中国語小説が読める」

¹² 得 *dé* が可能補語構文で用いられる際、声調が2声から軽声に変化する。

10-4) *wǒ kěyǐ chōuyān ma?*

I possible smoke Q

「煙草を吸えるか?」

10-5) *wǒ huì shuō hànyǔ.*

I know speak Chinese

「私は中国語が話せる」

10-6) *nàge pútáo chī de ma?*

that grape eat obtain Q

「あのブドウは食べられますか」

・ 進行

10-7) *tā zài dǎ pīngpāngqiú*

(s)he be play table.tennis

「彼（女）は卓球をしている」

・ 試行

10-8) *chī chī kàn.*

eat eat look

「食べてみて」

・ 授与

10-9) *tā bǎ nà běn shū sòng gěi wǒ le.*

(s)he PRP that CLF book send give I PERF

「彼（女）は私にその本を送ってくれた」

3. おわりに

本稿では、副動詞語尾 **mi-* と結合する7つの補助動詞パラメータを選定し、地域言語学的観点からツングース諸語の補助動詞における言語間の相違について検討した。その結果、ツングース諸語の補助動詞は、表7のとおり、その分布地域が北から南へ行けば行くほど徐々に増加する傾向が確認できた。まず、ロシア領東シベリア地域の北部で話されているエウエンキー語、エウエン語、ネギダル語では、不可や完結のように英語の不定詞に近い補助動詞のみ見られる。しかし、南ツングース諸語（ソロン語、ホジェン語、満洲語、シベ語）には、開始、完結、肯定可能、進行、経験・試行などの幅広い補助動詞が見られ、周辺言語であるモンゴル語と中国語における補助動詞と重なるところが多い。これに対して、東ツングース諸語の補助動詞発達度合いは、北ツングース諸語と南ツングース諸語の真ん中に位置づけられ、その地域的分布をよく反映していると考えられる。

表 7. ツングース諸語と周辺言語における補助動詞

(KY: コリマ・ユカギール語、Sk: サハ語、Mon: モンゴル語、C: 中国語)

		可能											計
		開始	完結	不可	能力	理解	取得	コピュラ	進行	経験 試行	授与	完了	
北	KY	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	Sk	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	1
北	Ek (I)	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	E (I)	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	2
東	N (I)	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	OI (III)	+	+	-	+	?	-	-	+	-	-	-	4
	Nn (III)	+	+	-	+	+	-	-	+	-	-	-	5
	Oc (II)	+	+	-	+	-	-	-	+	-	-	-	4
	Ut (III)	+	+	+	-	+	-	-	+	-	-	-	5
	U (II)	+	+	-	+	-	-	-	+	-	-	-	4
	S (I)	+	+	-	-	-	+	+	+	+	+	-	7
南	Hz (II)	+	+	-	+	+	+	-	+	+	-	-	7
	M (IV)	+	+	-	+	-	++	-	+	+	+	+	9
	S (IV)	+	+	-	+	-	++	+	+	+	+	+	10
南	Mon	+	+	+	+	-	-	+	+	+	+	-	8
	C	+	+	-	+	+	+	-	+	+	+	-	8

さらに、可能補助動詞に関しては、動詞タイプにも差異が見られ、以下の3つのパターンに分類される：i) 北ツングース諸語、ネギダル語（不可**alba-*「できない」）、ii) 東ツングース諸語：肯定可能（能力**mutə-*「できる」、理解**ulxi-*「理解する」）、iii) 南ツングース諸語：肯定可能（能力**mutə-*「できる」、理解**ulxi-*「理解する」、取得**baka-*「得る」、*bahana-*「わかる」、コピュラ**o-*「なる」）。これらの可能補助動詞においても、北→東→南の順でモンゴル語や中国語との類似性が増えていく傾向が見られる。

以上のことを整理すると、ツングース諸語の補助動詞における言語間の相違は各言語の地域的分布と密接に関わっていて、近隣のモンゴル語や中国語からの影響の度合いに強く関係していると考えられる¹³。

しかし、本稿では詳しく触れていないが、本研究で扱っていない動詞が可能補助動詞を構成することがある。また、多様な動詞タイプによる可能補助動詞の意味用法の違いについてもさらなる検討が必要である。さらに、本稿では、未完了副動詞語尾と結合する補

¹³ これは、インド・アーリアン語族、ドラヴィダ語族、チュルク諸語、モンゴル語、韓国語、日本語などの補助動詞について考察を行い、初めて補助動詞の発達が地域的分布と密接に関係していることを主張したMasica (1976) と一致する結果である。

助動詞のみに注目し、他の副動詞語尾による補助動詞についてはほとんど論じてはいない。これらに関しては今後の課題とする。

謝辞

本稿の改訂に当たり、貴重なご教示や指摘をくださった査読者の先生方に深く感謝を申し上げます。当然ながら、本稿におけるすべての誤りは筆者に帰するものである。

略号一覧

1, 2, 3: 1st person, 2nd person, 3rd person, ABL: ablative, ACC: accusative, ANT.CVB: anterior converb, AUX: auxiliary verb, CAUS: causative, CLT: clitic, CLF: classifier, COM: comitative, COND.CVB: conditional converb, CVB: converb, DAT: dative, DIM: diminutive, DIR: directive, DIRINT: directional-intentional, E: epenthesis vowel, EXC: exclusive, FUT: future, GEN: genitive, IMP: imperative, IMPF: imperfective, IMPF.CVB: imperfective converb, IMPRS: impersonal, INC: inchoative, INCL: inclusive, INTR: intransitive, LOC: locative, M: masculine, NEG: negative, N.FUT: non-future, NOM: nominative, N.PST: non-past, OBL: oblique, OPT: optative, PFV: perfective, PL: plural, PROG: progressive, PRP: preposition, PRS: present, PST: past, PTCP: participle, Q: question, RECP: reciprocal, REF: reflexive, REP: repetitive-reversive, SG: singular, SIM.CVB: simultaneous converb, -: 接辞境界, =: 接語境界, +: 融合.

参考文献

- Avrorin, V.A. and B. V. Boldyrev 2001. *Grammatika oročskogo jazyka*. Novosibirsk: izdatel'stvo. SO RAN.
- 白尚燁 2014. 「ツングース諸語における副動詞語尾 *-mi* の相違について」 『北方言語研究』 4: 85-110.
- Baek, S. 2016. *Tungusic from the perspective of areal linguistics: focusing on the Bikin Dialect of Udihe* (Ph.D. Dissertation). Sapporo: Graduate School of Letters, Hokkaido University (URL: https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/61556/1/Baek_Sangyub.pdf).
- Baek, S. 2017. Grammatical peculiarities of Oroqen Evenki from the perspective of genetic and areal linguistics. *Linguistic Typology of the North* Vol.4: 13-32.
- Boldyrev, B. V. 1994. *Russko-evenkijskij slovar'*. Novosibirsk: Nauka.
- Bulatova, Nadezhda & L. Grenoble. 1999. *Evenki*. München/Newcastle: Lincom Europa.
- Chaoke 1995. *Ewenkeyu Yanjiu* (=Researches in the Ewenki language). Beijing: Minzu chubanshe.
- Choi, Dongkwon et al. 2012a. *Cengeonogeoldaesinseok* (=Nogeoldae in Manchu). Seoul: Pakmunsa.
- Choi, Dongkwon et al. 2012b. *Beje i cooha bade jabuha babe ejehe bithe* (=the book in which I wrote what I remembered in the war). Seoul: Pakmunsa.
- Cincius, Vera I. et al. 1975. *Sravnitel'nyj Slovar' Tunguso-man'zhurskikh Jazykov*: Tom. I. Leningrad: Nauka.
- 江畑冬生 and Popova, N. 2006. 『サハ語文法』 (サハ語言語研修テキスト I) 東京: 東京

- 外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- Gorelova, L. M. 2002. *Manchu Grammar*. Handbook of oriental studies, Section 8. Central Asia vol. 7. Leiden/Boston/Köln: Brill.
- Ikegami, Jiro. 1974. Versuch einer Klassifikation der tungusischen Sprache. *Sprache, Geschichte und Kultur der Altaischen Völker, Protokollband der XII. Tagung der Permanent international Altaische Conference 1969 in Berlin*: 271-272. Berlin Akademie Verlag.
- 池上二良. 1997. 『ウイльта語辞典』札幌：北海道大学図書刊行会.
- 池上二良. 2002. 『ウイльта口頭文芸原文集』(ELPR publication series: A2-013, ツングース言語文化論集 16) 吹田：大阪学院大学情報学部.
- 郊勲 2014. 「シベ語テキスト―手延べ麺とシベ風パンの作り方―」『北方言語研究』4: 199-212.
- 風間伸次郎. 1996a. 「ヘジェン語の系統的位罫について」『言語研究』109：117-139.
- 風間伸次郎. 1996b. 『オロチ語基礎資料』鳥取：鳥取大学教育学部.
- 風間伸次郎. 2001. 『ナーナイの民話と伝説 6』(ELPR publication series: A2-005, ツングース言語文化論集 15) 吹田：大阪学院大学情報学部.
- 風間伸次郎. 2002. 『ネギダール語テキストと文法概説』(ELPR publication series: A2-021, ツングース言語文化論集 19) 吹田：大阪学院大学情報学部.
- 風間伸次郎 2004. 『ウデヘ語テキスト(A)』(ツングース言語文化論集 24/A) 府中：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 風間伸次郎. 2006. 『ウルチャロ承文芸 4』(ツングース言語文化論集 43) 府中：東京外国語大学.
- 風間伸次郎. 2007. 『ソロンの民話と伝説 1』(ツングース言語文化論集 37) 府中：東京外国語大学.
- 風間伸次郎. 2008a. 『ソロンの民話と伝説 2』(ツングース言語文化論集 41) 府中：東京外国語大学.
- 風間伸次郎. 2008b. 『ナーナイの民話と伝説 11』(ツングース言語文化論集 40) 札幌：北海道大学大学院.
- 風間伸次郎. 2010. 『ナーナイの民話と伝説 12』(ツングース言語文化論集 48) 府中：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 風間伸次郎. 2014. 「日本語の類型について：アルタイ型言語の解明を目指して」『北方言語研究』4: 157-171.
- カンチュガ、A. 2010. 『ウデヘ語自伝テキスト 2：青年時代』(津曲敏郎編訳)(ツングース言語文化論集 50) 札幌：北海道大学大学院文学研究科.
- 久保智之、児倉徳和、庄声. 2011. 『シベ語の基礎』府中：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- Lehmann, Thomas. 1993 (1989). *A Grammar of Modern Tamil*. Pondicherry: Institute of Language and Culture.
- 李林静 2006. 『ホジェン語の動詞構造』【博士論文】千葉：千葉大学大学院社会科学文化研究科.

- 李林静 2014. 「ホジェン語の動詞屈折形式とその統語機能」『北方言語研究』4: 111-126.
- Masica, C. P. 1976. *Defining a Linguistic Area: South Asia*. Chicago: University of Chicago Press.
- Maslova, Elena. 2003. *A Grammar of Kolyma Yukaghir*. Berlin/New York: Mouton de Gruyter.
- Nedjalkov, Igor V. 1997. *Evenki*. London: Routledge.
- Pevnov, A.M. & M.M. Khasanova. 2003. *Mify i Skazki Negidal'tsev*. ELPR publication series: A2-024, Suita: Faculty of Informatics, Osaka Gakuin University.
- Sung, B. 1968. Manzueo muneoeu pudongsa eomi -mee daehayeo (=On Manchu converb ending -me). *Hangeul* No.142: 72-102. Korean Language Research Society.
- Tamura, Kenichi. 2008. Grammatical suffixes of Hezhen: with the text 'Antu Mergen' and its English and Japanese translations. *Bulletin of Aichi University of Education Humanities and Social Sciences* 57: 37-54. Aichi: Bulletin of Aichi University of Education.
- 津曲敏郎. 2002. 『満洲語入門20講』東京：大学書林.
- 山越康裕. 2012. 『詳しくわかるモンゴル語文法』東京：白水社.
- Zikmundová, Veronika 2013. *Spoken Sibe: Morphology of the Inflected Parts of Speech*. Prague: Karolinum Press.

Auxiliary Verbs in Tungusic from the Perspective of Areal Linguistics

Sangyub BAEK

(Muroran Institute of Technology)

The main objective of this paper is to study distinctions of auxiliary verbs in Tungusic from the perspective of areal linguistics. In spite of some previous typological studies conducted in this regard, the specific difference of auxiliary verb development within the Tungusic languages has not been fully discussed so far. Thus, this paper examines seven auxiliary verbs in Tungusic and its neighboring languages (Sakha, Kolyma Yukaghir, Mongolian, and Chinese). The auxiliary verbs in question are as follows; inceptive, completive, capable, progressive, attemptive, benefactive, and perfective.

In conclusion, this study shows that variations in these auxiliary verbs among Tungusic in accordance with their areal distribution are confirmed and their attested numbers gradually increase from North Tungusic to South Tungusic. In addition, verb types employed in capable-related auxiliary verb structure also vary depending on geographical distribution of Tungusic. These phenomena are considered to be closely related to the degree of language contact with adjacent Mongolian and Chinese languages.

(ベック・サンヤップ iyairaykere@hotmail.co.jp)